

植物多様性センターの「ツノハシバミの角」

ツノハシバミはカバノキ科の落葉低木です。学習園武蔵野ゾーン雑木林エリアに、以前より植栽されていましたが、クヌギやコナラの大きな木の下で、ほとんど実を見ることはできませんでした。今年は周囲の高木の枝を落としたことで日当たりが良くなり、情報館前のエントランスの脇で特徴のある果実を観察することができます。少しずつ実がふくらむ様子を秋までしばらく楽しむことができます。



早春の開花：尾状の雄花序は風で揺られて花粉を飛ばす



雌花序：赤い柱頭の目立つ数個の雌花からなる雌花序



ふくらみ始めた果実：堅果は緑色の筒状の果苞で覆われる



名の由来がわかるようにツノのような果苞が伸びる